西河原小だより

平成 31 年1月31日（木）
茨木市立西河原小学校
校　長　前田　浩二

～一人ひとりが輝き、笑顔と学びがあふれる学校に～

1. あいさつをする。
2. しっかり話を聞く。
3. 友だちを大切にする。
4. チャレンジする。
5. ルールを守る。
6. 夢や目標をもつ。

前向きに頑張る姿が誰かの希望になる

今年は比較的穏やかな正月を過ごし、このまま暖冬を迎えるかと思っていたところ、１月中旬ごろから寒波が押し寄せ、厳しい寒さを迎えています。

「１．１７」２４年目の阪神淡路大震災の日を迎えました。1 月 27 日に西河原地区自主防災訓練が本校で行われ、地域のみなさんの協力により本番の訓練ができ、防災への意識が深まるものとなりました。防災への意識が減災へとつながるとも言われています。新聞を紹介します。

「２４年前のあの日、地震で崩れたアパートのがれきの下敷きになり、父親が犠牲となりました（当時 36 歳）当時３歳だったＡさんは、小１の授業参観で『自分には父親がいない』ことに気づき、寂しい思いをし続けてきた。それでも、震災遺児が集う『神戸レインボーハウス』（神戸市）で同じ境遇と友達と出会い心が開け、『震災を語れる最後の世代としてできることをやりたい』と自分の体験を語り始める。大学生の時、ボランティアとして訪れた東日本大震災・被災地である中学校の先生に『あなたが来てくれるだけで希望になる』と言われました。今、Ａさんは『私が前向きに頑張る姿が誰かの希望になる』と信じ活動を頑張っています」。一人ひとり、様々な立場で前向きに頑張る姿が周りの人に希望を与えていけることを教えていただけたように思います。

さて、子どもたちはこの寒風の中、マラソン練習をすごく頑張っています。風邪、インフルエンザを吹き飛ばして頑張っています。２月、まだまだ厳しい寒さが続きます。インフルエンザ流行もこれからです。手洗い、うがいの励行で健康に気をつけ、学校生活を元気一杯送ってほしいと思います。

校長：前田　浩二

家庭学習がんばり週間（保護者からのコメント）

・毎日、自分から家庭学習をやっています。とても頑張っているので、このまま続けてほしいです。
・勉強をすすんで一人で考えながら進めていました。「やっといたで～」が口癖になってきています。
・弟と競うように積極的にお手伝いに取り組んでいました。家族の一員として、姉としての責任感が増してきたと感じる今日この頃です。
・自主学習の習慣がしっかり身についてきて、よく頑張っていると思います。
・3 日目くらいから漢字のまとめプリントは間違わなくなりました。毎日続けることで覚えられることをわかってくれていたらうれしいです。
・自分でしっかり目標を決め、達成できて本当にすごいです。どんな学習をしようか自分で考え、実行していました。この家庭学習から毎日新聞を読む習慣がついたようで、本当によかったです。これからもがんばってね。

2月の行事予定

日	月	火	水	木	金	土
					1 6 年合同マラソン大会　要点監視	2 校庭開放 PTA 役員会
3	4 読書タイム	5 SC　6 年合同マラソン大会予備日 5 年命の授業	6 のびのびタイム　4，5 年マラソン大会 13:30 下校	7 新一年小学校体験入学　委員会	8 NET　4,5 年マラソン大会予備日 6 年中学校体験入学	9
10	11 建国記念日	12 こころのアンケート（～15 日）	13 のびのびタイム 放課後子ども教室	14 クラブ　学校朝会 6 年キャリア教育	15 新一年生入学説明会 15:00～ NET　要点監視	16 校庭開放
17	18 お話ボラ（1～4 年） 読み聞かせ　ｷｬﾘｱ教育（6 年）　読書タイム	19	20 のびのびタイム　6 年キャリア教育　放課後子ども教室	21 後期クラブ最終ｸﾗﾌﾞ見学 交流勉強	22 参観・懇談（1，2，3 年）	23 放課後子ども教室 新 1 年生用品販売
24 体育館清掃	25 読書タイム　SC	26 参観・懇談（4，5，6 年）	27 のびのびタイム放課後子ども教室	28 児童朝会（卒業を祝う会）		

《お知らせとお願い》

・2月　6日（水）は市内冬季研修会のため、児童の下校は給食終了後、１３時 30 分頃になります。
・2月　１３日（水）1年生が公開授業をします。全学年通常授業後に下校します。

これからの主な予定

・3月　2日（土）　PTA 総会
・3月１８日（月）　卒業式
・3月２２日（金）　修了式
・4月5日　（金）　入学式
・4月8日　（月）　始業式

２月の生活目標

「寒さに負けず　体を動かそう」

２月の給食目標

「**食後は　ゆっくり　休もう**」です。

マラソン練習ー小中連携で日本 1 周を目指してがんばっています。

１月下旬より今年度の教育活動をふりかえり、次年度への課題やその方策について検討するため学校教育自己診断を実施しています。ご協力いただき、ありがとうございます。

２月１日まで受け付けていますので、引き続きご協力をお願いいたします。結果につきましては３月に公表予定です。よろしくお願いいたします。

無料オンラインゲームの落とし穴

ソーシャルゲームと呼ばれるオンラインゲームは無料で遊べるものが多いですが、ゲーム内で購入出来るアイテムに高額課金する未成年が社会問題化しています。

他のユーザーよりも強くなりたい。もっと強い敵を倒す為のアイテムが欲しい。そんな時に手っ取り早く強い力を手に入れる為の手段が課金なのです。

ゲームの中では、強くなればなるほどお金がかかる仕組みになっています。制限なく強さを求めることが出来るので、その分お金を投資しようと思えばキリがありません。課金方法も、手軽にできる仕組みになっているので「ついつい」が繰り返され、いつの間にか高額を課金していたというケースが多くあります。

ソーシャルゲームの利用実態調査結果、以下 5 つの傾向

傾向 1：ソーシャルゲームで遊ぶ際に「課金をしたことがある」ユーザーは過半数
傾向 2：並行して遊んでいるソーシャルゲームのタイトル数は、平均 3 本
傾向 3：普段遊んでいるソーシャルゲームタイプは「無料アプリでアイテム課金型」が 8 割
傾向 4：一回あたりの平均課金額は「800 円」、平均月間課金額は「2,700 円」
傾向 5：最も多い課金対象は「回復アイテム」、次いで「武器などのステータス向上アイテム」

課金では、アイテムという名の「データ」と、強くなるための「時間（短縮）」を購入しています。これらは目には見えませんが、課金することで他ユーザーに差をつけたり、差を縮めたりすることが出来るので、プレイしているユーザーにとってはとても貴重なものに感じられます。

ソーシャルゲームは、家庭用ゲームのソフトとはどのような違いがあるのか、以下にまとめました。

家庭用ゲーム	ソーシャルゲーム
有料販売	無料配布
ソフト代金のみで課金は必要ない	ゲーム内アイテム課金制
ガチャがない	一回数百円～数千円のガチャ課金がある
射幸心（「当たり」による利益を得たい気持ち）を煽らない	射幸心（「当たり」による利益を得たい気持ち）を煽る
ゲームの腕で強くなる	課金で強くなる

課金ゲームの落とし穴

① 登録時は無料を謳っている
②高額を支払っているという実感がわかない
③ ギャンブルと同じで脳内麻薬が分泌されている
④「ガチャ」は裏で確率操作されている可能性がある
⑤ お金で時間を買うことは結果的には無意味

行うべき5つのステップ

やめたくてもやめられない…そんな課金ゲームを上手にやめるには、どのようにしていけばいいでしょうか？以下に5つのステップを記述していきます。

① 月の課金限度額を設定する
②無課金で楽しめる手段を考える
⑥ 認証パスワードを変える
④課金ゲーム以外のことに費やす時間を作る
⑤ アンインストールする

プリペイドカードで課金する子どもたち

「子どもにはクレジットカードを持たせていないから課金できないはず」と思う保護者もいるようです。しかし、実際は未成年でも簡単に課金できてしまいます。

コンビニエンスストアで「iTunes カード」「GooglePlay カード」「WebMoney」「LINE プリペイドカード」などのプリペイドカードが並んでいるのを見たことがありませんか。購入時に年齢確認なども必要なく未成年でも購入可能であり、これを使うと未成年でも簡単に課金できてしまうのです。

実際、小学生間でもこのことは周知の事実で、ある小学生男児は親に隠れてお年玉の 5000 円をつぎ込み、プリペイドカードを購入していました。使い終わったカードをゴミ箱に捨てていたからこそ保護者が気付いたが、もう少し知恵がついていたら判明しなかったかもしれません。

子どもの高額課金を防いだり、保護者が早期に気付いたりするためには

普段からスマホの話などをして、子どもがどんなアプリをどのように使っているのかを把握しておく必要があります。たとえ自分がバイトで稼いだお金でも、使い方について指導するのは保護者の責任です。一方、幼児や小学生など年齢が低い子どもの場合は、以下のような設定をしておくとよいでしょう。

① App Store、GooglePlay などで購入できない設定にしておくか、毎回パスワードを入力する設定にしておく。
② クレジットカードを子どもの手の届かないところで管理し、明細は毎回確認する。プリペイドカードで購入しても、登録したメールには購入した旨の通知がくる。メールは保護者のものにし、必ず確認すると良い。

「スマホの課金」　ただ「ダメ」は NG！　理解してルールを決めることが大切

保護者がただ「ダメ」と言うだけでは子どもは納得しません。それよりもルールを作って利用するほうが子どもも反発しませんし、保護者としても子どもの行動を把握しやすいものです。では、家庭ではどのようにルールを作ればいいのでしょうか。

金額や回数をルール化し、範囲内で楽しむことの訓練をする

現在子どもに渡しているお小遣いの金額などから、スマホにどの程度のお金をかけてもいいか、親子で話し合ってみましょう。単純に「お小遣いの範囲ならよい」として、プリペイドカードを使う方法もあります。プリペイドカードであれば事前に支払った金額でしか課金することができません。慣れるまでは必ず保護者と一緒に支払いや支払手続きをするなどして、「支払いまでにどういったトラブルが考えられるか」ということも話し合うようにしましょう。幼い頃「お店でのお金の使い方」を教えたときのように、子どもに寄り添って考えるようにするのがよいでしょう。

CNET Japan　特集　スマートフォンネイティブが見ている世界